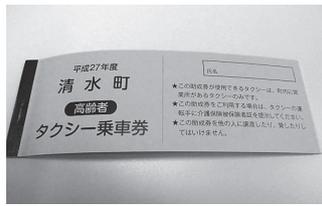


職員の資質向上

佐藤幸一 議員

職員は社会の変化に対



65歳以上で要支援・要介護の認定を受けている方に交付されているタクシー乗車券

② 拡充した場合の必要経費の概算は。  
高薄町長  
① 平成26年度の対象者は360人。そのうち乗車券を利用された方が215人。360万円分の乗車券を交付し、183万3000円の利用があり、利用率は50・8%。  
② 約1300人が対象となり、現在の利用率から780万円程度必要になる。運転免許証の返上と合わせ、財政面も含めて検討する。

高薄町長  
① 昇任や昇給もやる気につながるが、町民あつての職員であることを常に意識し、広い視野に立つことが必要。研修を含め、方策を考える。  
② 年度初めに研修日程を通知し、希望者を募っている。研修の内容により指名することもある。町の職員研修はテーマを決めて実施している。  
③ 幅広い考え方や、深い洞察力、接遇の技術や調整力、判断力やチェック力が必要であり、これまでの経験も重要視している。

不登校・ひきこもりに対する本町の取り組み

鈴木孝寿 議員

本町における不登校への取り組みとその連携状況について、また、ひきこもりに対しては今後どのような支援体制を考え、地域理解の醸成に努めるのかを伺う。  
三澤教育委員長  
家庭環境も含めた複雑な問題に対しては、子育て支援課や学校等との情報共有と連携した対応を行い、保護者を含めて解決する努力を続けており、このことが不登校の未然防止にもつながっている。幼・保・小の連携で幼稚園や保育所での状況が小学校に詳細に伝えられており、生活面や学習指導の充実が図られるなど大きな成果となっている。

高薄町長

専門家に委ねる方法や、フリースクールを開設す

る方法もあるが、地域全体で問題を共有して課題を一つひとつクリアする方法を考えていきたい。



保護者や地域の方々の温かい拍手に包まれた学習発表会 (清水小学校)

ふるさと納税の現状と今後の取り組み

鈴木孝寿 議員

ふるさと納税において本町は、特典制度の拡充によりその実績は大幅に上がっている。しかし、商品の送付だけでは納税者に本町の理解を得るには至っていない。一過性の納税制度にするのではなく、将来清水町に来て、住んでいただくという考え方を持った運用が必要

だと思うが、今後の方針を伺う。

高薄町長

納税していただいた方にもふるさと応援会員証を送っているが、会員証で何かできないか考えている。会員の年数によって特別住民票を作ったり、ウェブ上の住民とするのも一つの方法であり、交流、定着、移住とつながれば理想である。今ある移住促進協議会をもっと広げて実現できるものからやっていきたい。

女性が活躍できる環境を

安田 薫 議員

女性活躍推進法案が可決され、政府・与党が一体となって政策の推進に弾みをつけたいとあるが、今後の本町の取り組みについて伺う。

高薄町長

女性職員が多い保育士は、将来的に全員正職員

にする。女性職員の割合は28%くらいになる。国から通知が示されたら行動計画を策定する。

電気柵の安全確保

安田 薫 議員

最近では鳥獣被害防止対策として電気柵が多く使われているが、町として安全対策にどう取り組むのか。

高薄町長

農協の指導のほか、町も適正であるかの調査を行っている。安全表示が劣化して外れている可能性もあるので、農協ではファックスで文書を送信する等の対策をしている。

地域防災計画と自主防災体制

北村光明 議員

本町の防災計画と町内会等自主防災体制につ